

緊急地震速報について

中央防災会議
平成19年3月20日

東京大学地震研究所 阿部勝征

緊急地震速報とは

大きな地震が発生したことを素早く検知し、
大きな揺れ（S波）が来る前に、お知らせする情報です。

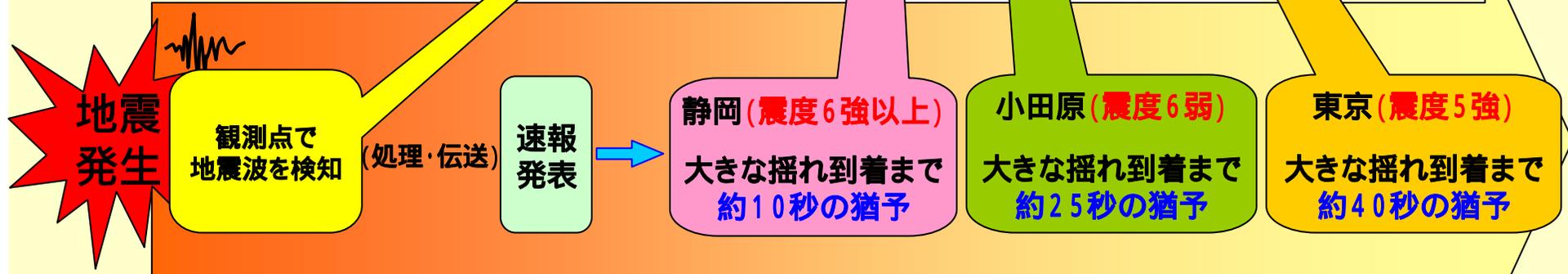
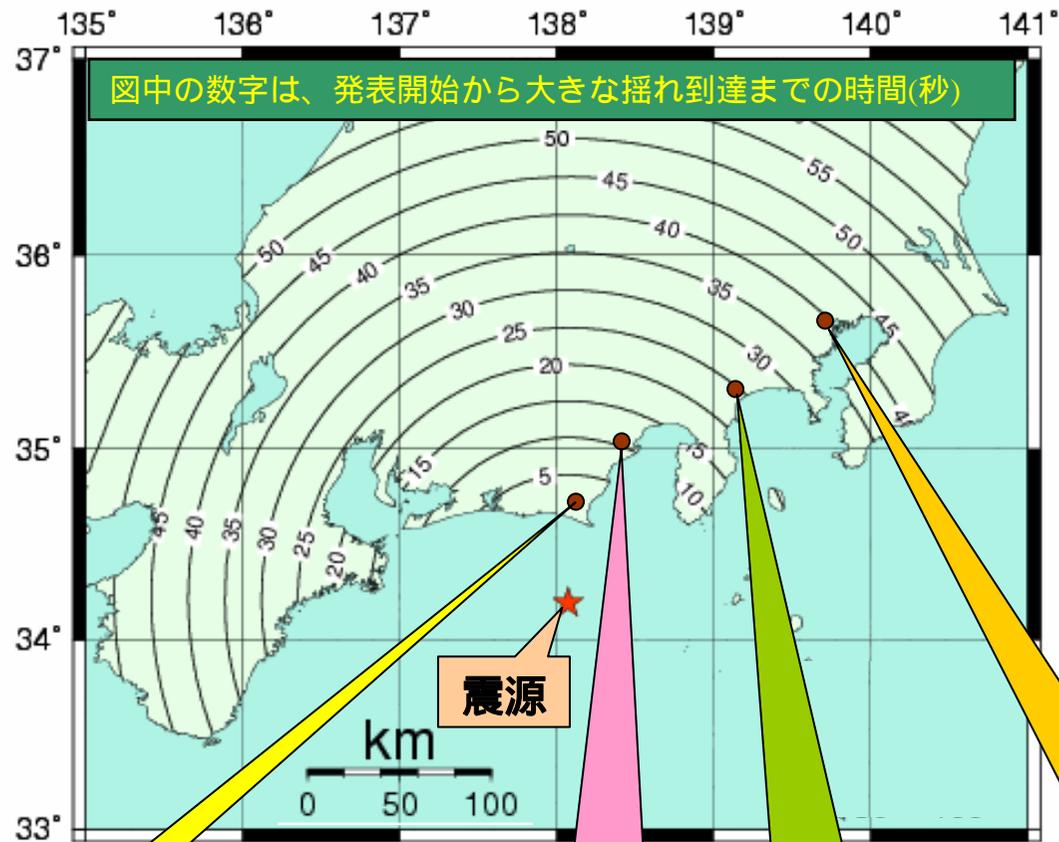


NHK クローズアップ現代
命を守る10秒間

平成18年7月4日

緊急地震速報による余裕時間の例

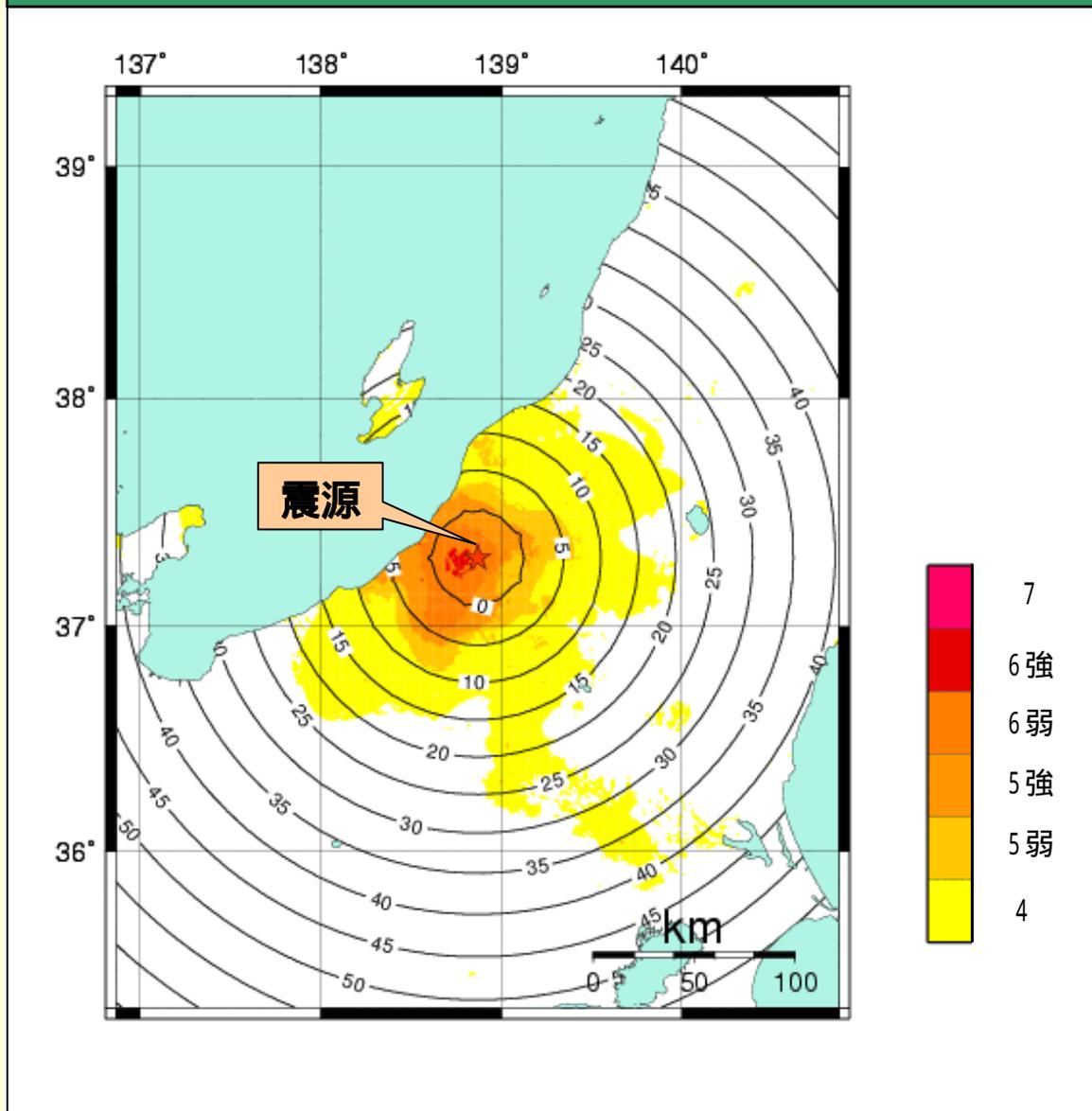
(想定東海震源域の南端付近に震源)



緊急地震速報による余裕時間の例

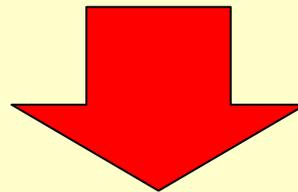
(平成16年新潟県中越地震)

図中の数字は、発表開始から大きな揺れ到達までの時間(秒)



緊急地震速報の活用

緊急地震速報が発表されてから、実際に大きな揺れが来るまでには、わずか数秒～十数秒の猶予時間しかありません。



しかし、このような短い時間であっても、あらかじめ対応を決め、訓練を行うことで、災害を軽減することが期待できます。

実際の活用例

鉄道の制御による
乗客の安全確保



工事現場での
安全確保



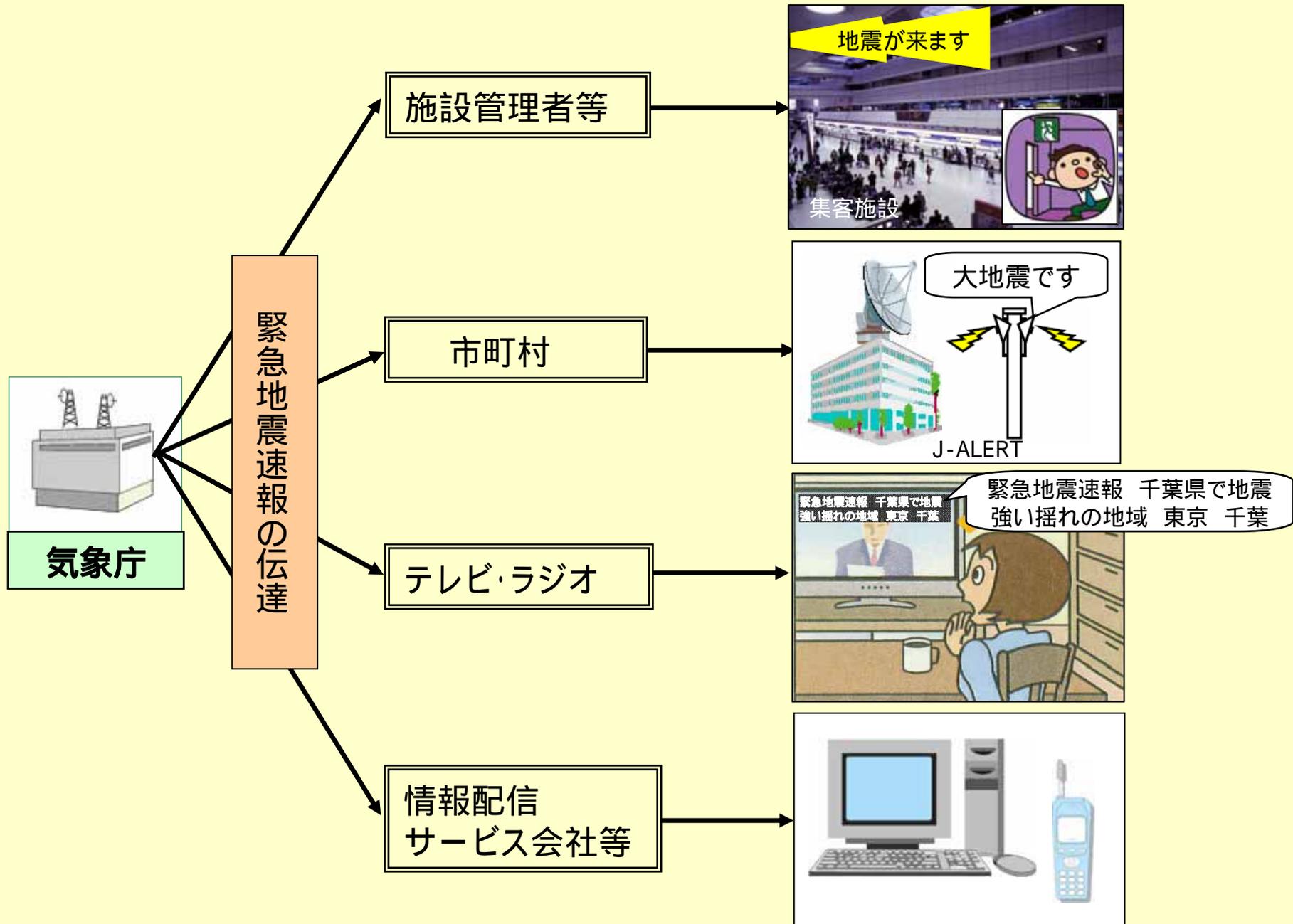
医療現場における
患者の安全確保



NHK クローズアップ現代
命を守る10秒間

平成18年7月4日

想定される緊急地震速報の伝達手段

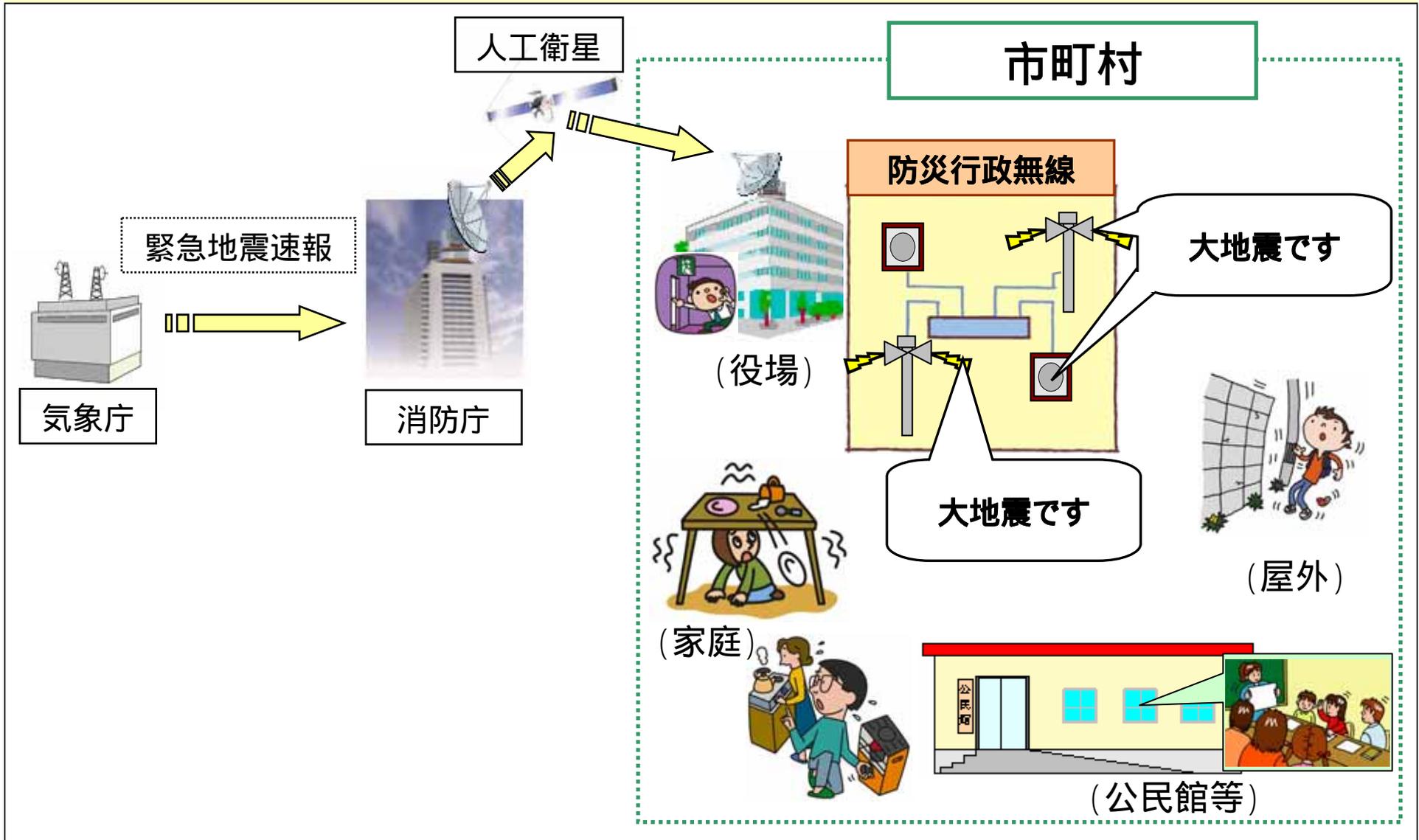


緊急地震速報をテレビで放送する際のイメージ

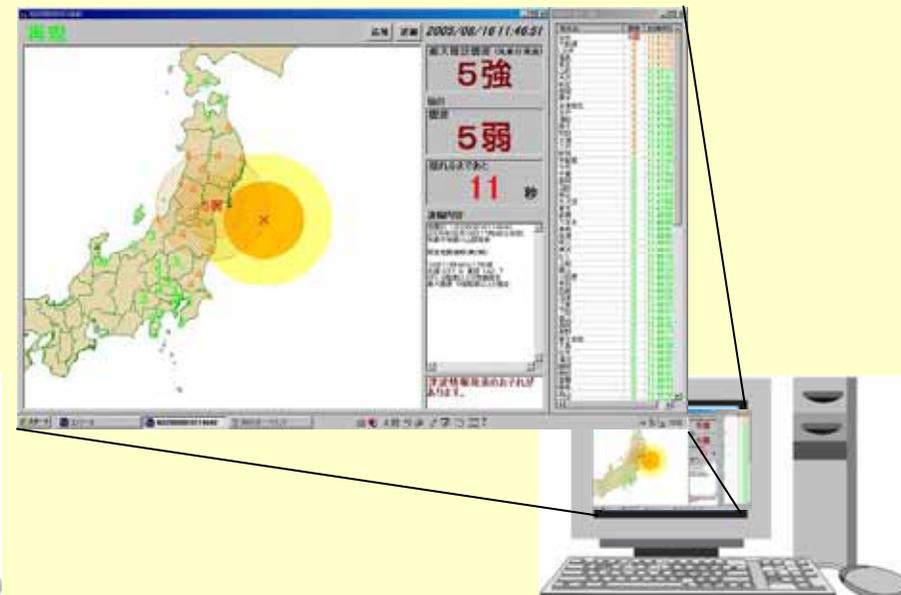
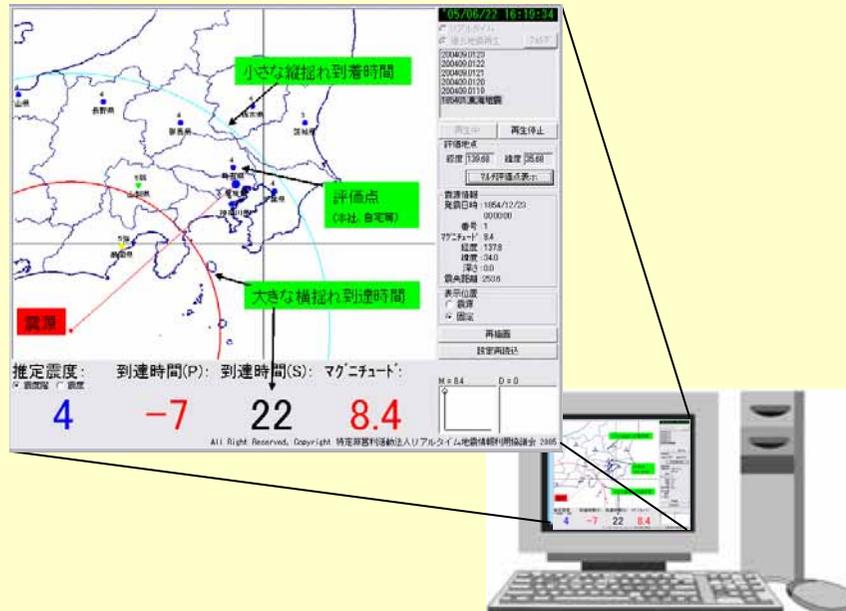
緊急地震速報 宮城沖で地震
強い揺れの地域 東北 関東 新潟



全国瞬時警報システム (J - ALERT) による 緊急地震速報の伝達



緊急地震速報の受信端末の例

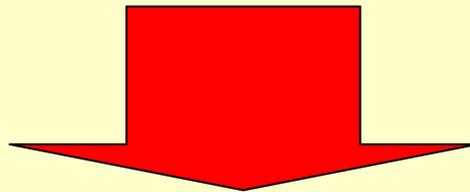


緊急地震速報の課題

課題

緊急地震速報の利用の促進

緊急地震速報の利用に伴う混乱の防止



「検討会」としての取組み

『緊急地震速報利用の心得』を作成し、
徹底的に周知・広報する

集客施設

× 「緊急地震速報の利用の心得」の周知が不十分



「緊急地震速報の利用の心得」の周知徹底

- ・あわてて出口や階段に殺到しない
- ・照明などの下からは離れる



自動車運転中

× 「緊急地震速報の利用の心得」の周知が不十分



「緊急地震速報の利用の心得」の周知徹底

- ・あわててスピードを落とさない
- ・ハザードランプを点灯した後、急ブレーキは踏まずに、緩やかに減速



まとめ

緊急地震速報の提供開始 本年9月頃予定

様々な施設において、減災に向けた利活用に
管理者が取り組むことを期待

家庭などの一般向けには、『緊急地震速報利
用の心得』の周知徹底が必要

緊急地震速報の利活用の促進、利活用に伴う
混乱防止に向けた政府一丸の取り組みが必要